

5 実行委員会

(1) 実行委員会とは

実行委員会とは、行政とNPO、場合によっては、それ以外の主体が新しい一つの組織を立ち上げ、そこが主催者となって事業を行う形態です。

(2) メリット

- 事業の企画段階から、各主体の意見を出し合いながら実施することで、適切な協働関係を築くことができます。
- 参加する各団体が協力することで、それぞれの団体が持っている情報やノウハウ、人的パワーなどを活用でき、市民ニーズに即した企画やより規模の大きなイベントの実施が可能となり、幅広い参加を促すことができます。

(3) 現状と課題

- 現在、実行委員会形式で行われている事業では、NPO、企業、行政等多様な主体がメンバーとして実行委員会を組織し、事業の運営もそれぞれの団体が専門性を発揮し、適切な役割分担をして実施しているものが多くあります。
- 一方、行政主導で組織する場合もあり、NPO等が単に参加するにとどまっている場合もあります。

(4) 留意点

共通事項

- 事務局をどこが担うかが、企画の質を決めるポイントになります。核となる団体を事務局とし、多様な主体が参加する組織構成にするなどの工夫が必要です。
- 行政が主導で組織した実行委員会等であっても、事務局はNPOが担うなど、市民主体の運営を心がけることが大切です。
- 実行委員会構成員の役割分担については、実行委員会規約などを作成し明確化した方がいいでしょう。

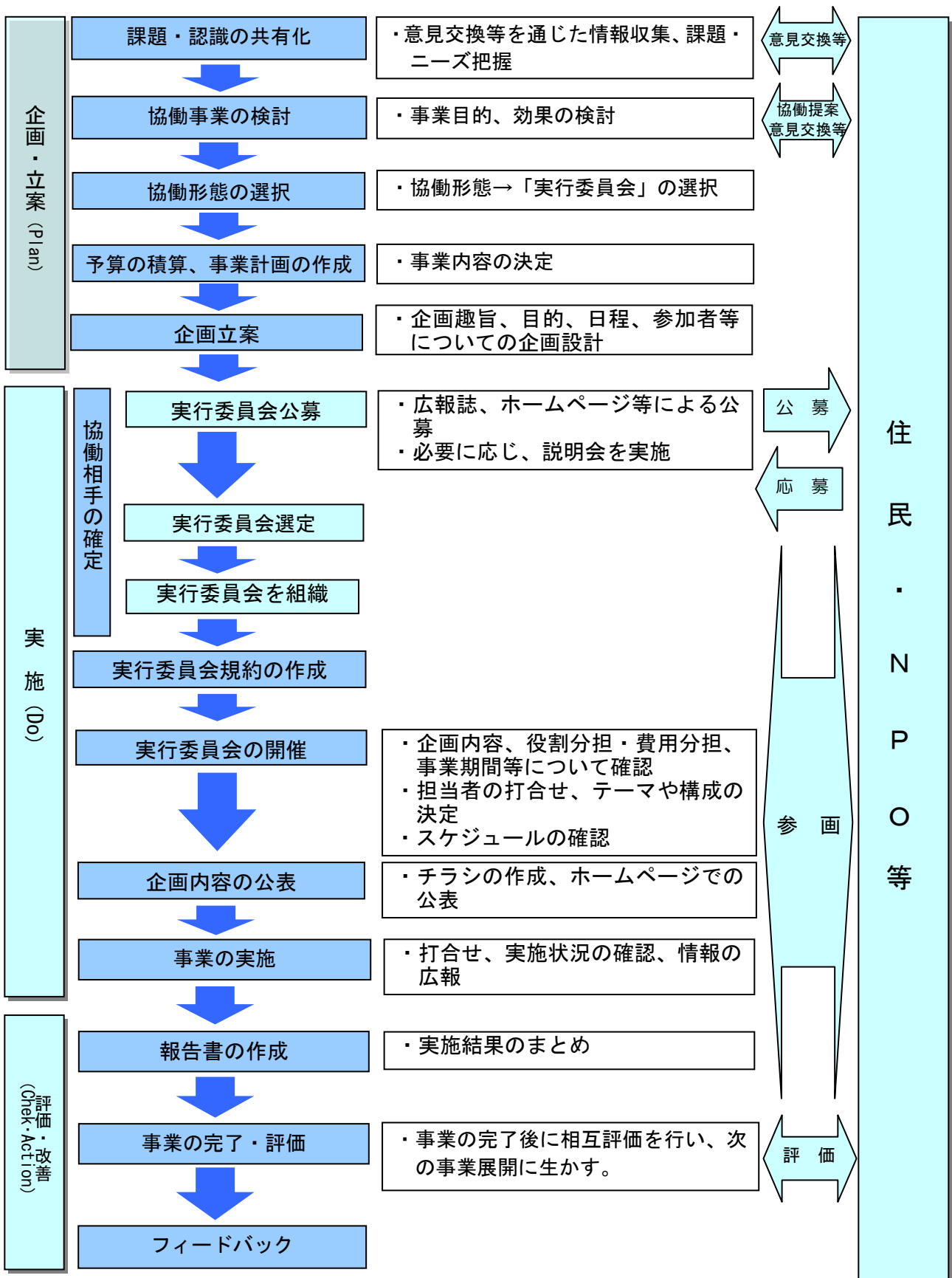
行政が留意する事項

- NPOが立ち上げた実行委員会に県が一主体として積極的に参加することも大切です。

NPOが留意する事項

- NPOは、その専門性を活かしつつ、実行委員会の運営においても信頼が得られるよう努力しましょう。

(5) 事業実施フロー



事 例

＜NPO、市民、行政が実行委員会を構成し、企画から実施まで協働した事例＞

【新潟豪雨災害、中越大震災、中越沖地震における災害復興イベント等の開催】

新潟県では、平成 16 年に 7.13 新潟豪雨災害、新潟県中越大震災、平成 19 年に新潟県中越沖地震と度重なる災害に見舞われました。この災害からの復興プロセスにおける主な周年行事や各種イベントは、新潟県、各市町村とNPO、ボランティア団体、市民等で実行委員会が組織され、実施されています。

この一連の行事は、それぞれ、時期によって、また、被災地によって多少の趣旨の違いはありますが、主に、災害で犠牲になられた方々への追悼、被災を受けた方々が協力して復興に向けてがんばっていることの発信、全国からの支援に対して感謝をするといった趣旨で行われています。

この趣旨からもわかるように、これらの行事やイベントは、被災地の様々な人や組織が気持ちをひとつにして取り組むことが重要です。実際には、この行事、イベントの場面ではない、日常的に行われている本来の復興の取組みにおいて、各関係機関と一緒に活動していることもあり、企画段階から、様々な幅広い人達の意見交換の中、進められています。

実際に行われている災害における周年行事やイベントで実行委員会の取組み事例をご紹介しましたが、この事例から、

- ①何を目的として行うかを明確し共通認識を持つこと（目的の明確化、共通認識）
 - ②様々な機関がその専門性を生かし積極的に参加すること（専門性を生かした協働）
- そして何よりも、
- ③関係機関が、日ごろからの活動を通じた関係づくり

すなわち、意見の言いやすい関係を作っていくこと（日頃からの付き合い）が重要であることがわかります。